

# 学術情報センターだより

Library and Information Technology Center, Nagoya Women's University

## 恩師との出会い

駒田 格知 (家政学部食物栄養学科)

私の六十余年にわたる人生に3人の“恩師”と  
思っている先生がおられます。

その一人は大学院の指導教官であった先生です。大学3～4年生のとき、「さて、本格的に将来の方向を考えなくては……」と思っていた頃、まず、頭に浮かんだのは大学院への進学でした。ちょうどその時、私の在籍する大学の教授で、研究面で世界的にも著名な先生の講義を受けていました。そこで、その先生について色々な情報を収集することにしました。先生の研究論文の内容・レベル・数、指導した学生の業績・進路、人間性等……あらゆる面を知ろうとしました。当時は、現在のような情報収集システムはありませんでした。叱られるのを覚悟で「先生の著論文を全て読ませて下さい」と研究室を訪ねたことを憶えています。「よく訪ねてくれた。これがその論文だ。しっかり読んでくれたまえ」とほぼ100編に近い原著論文を手渡して頂きました。その時の印象から「この先生は真に一流の研究者・人格者だ。一生ついてゆこう」と思いました。先生の研究生活に対する指導は厳しいものでした。在学2年間で、論文3編を赤ペンで真っ赤になるほど手直しを受けて、研究に対する態度をしっかりと教示して頂きました。先生から教えられた点は、まず他人の論文を読んで理解する能力を身につけること、創造性があり研究の計画・立案から実験・論文の作成まで一人で行う能力を身につけること、そして英

語の表現力を身につけることであったと思います。そして、大学院の修了時に先生に、自らの将来の職業適性について問うたことがあります。その時の先生の答えは今の自分の支えであります。そして、将来このようなことが教え子に言えるようになろうと思いました。大学の助手として就職した後に研究論文の別刷をお送りしたとき、「よくやっている。研究内容は郷に入れば郷に従えだよ」と研究テーマを独自の方向(動物形態学)に変更したことを認めて頂きました。

一方、当時の研究室の主任教授からは「君のテーマは一生ものだね」と言って頂きました。その主任教授の解剖学の講義は、約20年間、一度も休むことなく聴講させて頂きました。大学で教育する者としての原点はこの講義にあったと信じています。

もう一人、私の教育・研究人生を支えて頂いている先生があります。学位論文指導以来約30年間、今でも研究方向の話聞いて頂き意見をもらっています。そして、会話の最後に「それでいいでしょう」と言ってもらっているのです。

このような先生に出会えたからこそ、今の自分があります。それは、教育・研究生活を40年間続けてこられた礎であります。定年まであと数年ですが、“やはり人生は人と人との出会いが全てだ”と感じています。私は、良き師・友そして教え子に恵まれました。感謝です。

### ◎ 目 次 ◎

巻頭言「恩師との出会い」	1
〈資料紹介〉『ビジュアル臨床心理学入門』(DVD全20巻)	2・3
WebCTを活用した講義事例紹介	3・4
文学データベース Literature Resource Center の紹介	5
パスファインダー(テーマ別資料の探し方)を活用しよう	6・7
お知らせ	8

◆ 〈資料紹介〉『ビジュアル臨床心理学入門』（DVD全20巻） ◆

幸 順子（臨床心理学）

最近、心理学というと一般の人でも「カウンセリング」とか「臨床心理士」を思い浮かべるような時代になったが、私が学生の頃には臨床心理学は心理学の中でもマイナーな領域であった。臨床心理学以外の行動科学としての心理学は、客観的に人間を捉え、人間の心と体の関係や行動の普遍的な法則を解明することを目的とする。それに対し、臨床心理学は、他の心理学の成果と関連の上に成り立っているが、生身の人間を対象とした実践の学であり、悩みを持つ個人の心の中に入り込み、その援助の為にできることを共に探求するのが目的である。それゆえ、現実生活の中で具体的な個人を共感的に理解しようとすることに価値を見出し、行動科学的接近法とは次元の異なる人間へのアプローチ方法を用いようとしてきた。そんなわけで、私が在籍していた大学の教育心理学教室では、「臨床系」と「非臨床系」の教官の間で、心理学のあり方、あるいは研究方法について常に「熱い戦い」が繰り広げられていた。「非臨床系」の教官が、「臨床系」の教官の講義に自ら出席し最前列で挑戦的に聴講したとか、「臨床を斬る」というテーマで心理臨床相談室の研究会で発表したとか、「臨床事例研究」を「ワンショットケーススタディー（一発事例研究）」と敢えて嘲笑的に呼んで批判していたことは、忘れがたい。しかしそれは良い意味で、当時の教官や学生がそれぞれの立場について多に主張し、切磋琢磨し、教室全体が学問的活気に満ち溢れていたことを示すものであったと記憶している。こうした自由な批判的精神と雰囲気は大学には必要である。しかし同時に、それ程人間への接近法や研究方法のベクトルが異なると認識されてもいた。最近では、臨床心理学を学びたい人々が大変増え、「個」の徹底的な研究から普遍性を見出そうとする臨床的研究法も市民権を得るようになった。心理学に限らず今日では、世界を見る際に客観的に外側から対象を捉えようとするだけでなく、対象の内的世界の枠組みの中に入ってその主観的な枠組みで物事を捉えようとする姿勢が、見失ってはならない態度として見直されるようになってきた。

さて、「ビジュアル臨床心理学入門」では、人生の様々な時期における人間の心とからだの行動上の諸問題（第3、4巻）に関して、今日的な話題を取り上げ（第5、11～15巻）、援助のための理論と方法（第6～8、18～20巻）・技法（第9、10、16、17巻）について概観している。第1巻は「臨床心理学とは何か」という問いかけから始まる。厚生労働省の調査によると、現在、心の病に罹って通院する人は20年前の5倍にも達しているという。そもそも心の悩みというものは、



自分自身の何らかの目標を解決しようとして生じるものである。それゆえ意思があるところに悩みはつきものであるが、悩みが大きく重くなりすぎるとストレスとなり心身の様々な症状を引き起こし、病に至る場合もある。臨床心理学は、ともすると蓋をされ、目を逸らされがちなそうした人間の悩み、葛藤、迷い、心の病に積極的に光をあて、それらを理解し、社会生活に適応できるような手だてを探求しようとする学問である。それだけでなく、必ずしも困った症状や悩みがなくなるとも自己を見失いがちな生活の中で積極的に自分自身を探求し、自己や他者との出会いを目指して自己実現していくための理論と方法でもある。

臨床心理実践において、具体的な援助の手だてを探求するためには、個人の人格的要因と環境的要因がどのように相互作用し、何がどう問題となっているかを見極め、心の問題を判断する視点が必要になる。これを「アセスメント（第2巻）」という。アセスメント（assessment）は、治療の対象となる個人の疾病や障害の部分に焦点を当てる医学的診断（diagnosis）とは異なり、健康な部分も含めた、個人を取り巻く環境と個人の全人格に対する総合的判断である。こうした判断をするためには、行動科学的な人間に関する全般的知識、特に人格理論や援助に関する理論も踏まえる必要があるし、現実には臨床心理学だけを学んで実践ができるわけでは勿論ないが、DVDでは具体的な方法（面接・行動観察・心理テスト）と実際の様子が一見して分かりやすい。

臨床心理学が理解と援助の対象とする今日的な心と行動上の問題としては、特に保育・教育の分野で理解が求められている「発達障害（第5巻）」を始め、現在、社会的な問題となっている「児童虐待（第12巻）」、「心的外傷（トラウマ）（第14巻）」、「無気力（第11巻）」、「ひきこもり（第15巻）」、「うつ病（第13巻）」など

を取り上げ、その実際の姿と具体的な支援の方法を視聴覚的に分かり易く概説している。

心の問題を理解し援助するための心理療法の理論と方法・技法は大きく三つの立場に分けることができる。まず、無意識の層を重んじ心の深層を扱う力動精神医学(精神分析学)の立場からの「フロイトとユングの心理学(第6巻)」とその一つの技法としての「表現療法(第9巻)」。次に、ヒューマニスティック心理学の立場から自己実現(自分らしい自分となること、自己肯定感の回復)を追求するカール・ロジャーズの「来談者中心療法(第7巻)」とその発展的方法としての「グループアプローチ(集団心理療法)(第10巻)」。そして、三つ目に学習理論を基礎にしたアメリカの行動主義心理学の立場からの「行動論的アプローチ(行動療法)(第8巻)」とその技法としての「認知行動療法(第17巻)」や「自律訓練法(第16巻)」などがある。これらはただ単に一つの理論や方法論というだけでなく、それを提唱した人の生き方や人間観が鋭く反映さ

れている。したがって、個人の生き方を含めた思想として捉えることにより理解の幅が広がり、深まる。その他、現代の産業社会の中で急変する職場や家庭の問題に焦点を当てた「キャリアカウンセリング(第18巻)」や「家族療法(第19巻)」、また、森田療法、内観療法などの「日本で生まれた心理療法(第20巻)」に触れているのも興味深い。

こうしたDVDは、関心のある部分だけ気軽にピックアップして視聴できるのが利点である。臨床心理学について学びきっかけ作りになる。しかし、並列的にトピックスを取り上げた構成なので、系統だった臨床心理学体系の構造については把握しにくい。あくまでも知識としての入門である。実践を行うためには更に書物を用いて学習を深め、体験学習や実習を行う必要がある。そうした限界を踏まえて学習に利用するのに大変よい。

(所在：汐路 AV コーナー 請求番号：146/578/1～20/DV584～DV606)

## WebCT を活用した講義事例紹介

### 1. はじめに

平成 16 年度から運用を開始した WebCT は、平成 20 年度では 90 を超える講義やゼミ等で利用されています。今回は事例紹介として、家政学部生活環境学科の山内一晃先生が担当する建築計画 1 をご紹介します。

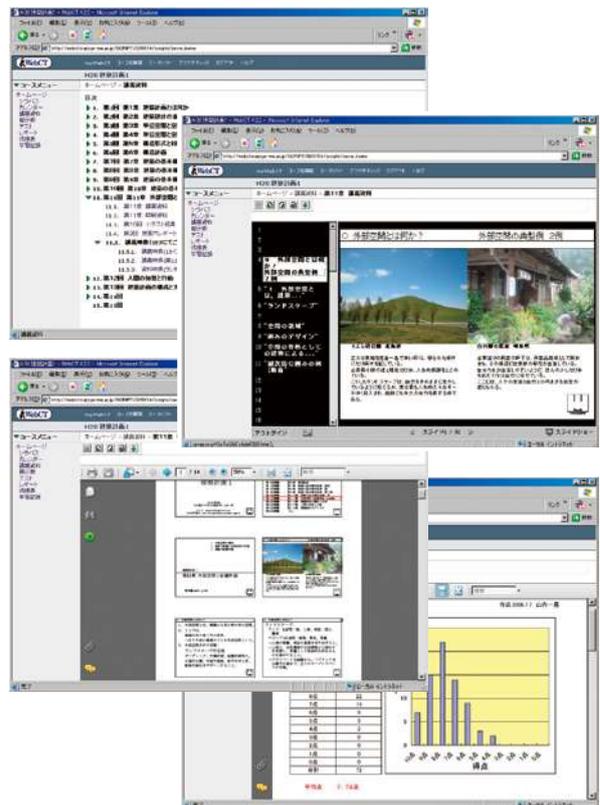
### 2. 講義概要

建築計画 1 では講義資料の公開やオンラインテスト(小テスト)を実施しています。特徴は、小テストを期間限定(講義終了後から次の講義まで)で実施し、テストの受験で出席管理を、テストの結果で成績管理を行っていることです。講義毎の小テストの実施は、学生から高い支持を集めています。



### 3. コンテンツの概要

コンテンツは大きく講義資料と小テストに分かれます。講義資料は PowerPoint から生成したコンテンツや印刷用資料、それに前回のテストの結果などです。



小テストは毎週講義終了後から次回講義の前日までの期間限定で公開され、テスト結果は次の講義で公開されます。WebCT は自宅からでも利用できるので、大学だけでなく自宅からでも回答することができます。この小テストは受験すると講義に出席したことになります。成績は小テストの合計で判定されます。



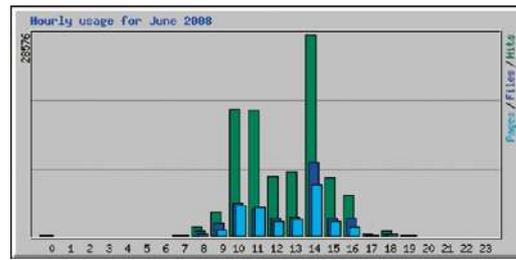
#### 4. 講義の進め方

先生が行う講義の流れは以下の通りです。

- ①講義準備（講義前日までに終了）
  - ・ 講義資料の作成、公開
  - ・ 小テストの集計、公開
  - ・ PowerPoint から文字データのみを抽出した講義要旨の作成、印刷
- ②講義
  - ・ 最初 10 分程度で講義要旨の配布、前回の小テストの結果発表等
  - ・ PowerPoint やホワイトボードを用いて講義
- ③講義後
  - ・ 小テストの実施（事前にスケジュール済み）

#### 5. アクセス結果

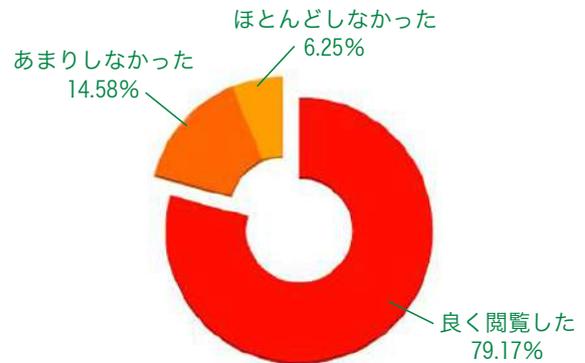
利用記録から WebCT を利用した傾向がわかります。グラフは 6 月の学内での利用記録ですが、講義がある火曜日と講義前日の月曜にアクセスが多いことがわかります。また、時間帯をみると講義終了後の時間帯でのアクセスが多いため、まだ講義内容が記憶にあるうちに小テストを受験している傾向があることがわかります。



#### 6. 学生アンケートの結果

学生に実施したアンケートの結果、多くの学生が講義資料を閲覧していました。小テストを講義毎に実施することは 87% の学生が「よかった」と回答しており、理由について講義直後の復習を積み重ねる方が理解度が高くなると考えているようです。

予習復習で WebCT の講義資料を閲覧しましたか



#### 7. 今後について

小テストにて使用した各設問は、平均点や標準偏差が自動的に計算されるため、各設問についての学生の理解度を知ることができます。



今後はこの結果を元に、正答率の悪かった設問について詳しく説明するなど、学生の理解度向上に役立てていきたいそうです。

# ◆ 文学データベース Literature Resource Center の紹介 ◆

## ● Literature Resource Center とは

Gale 社が出版している文学に関するレファレンス資料をオンラインで利用できる文学総合データベースです。全世界・全時代の作家、思想家、評論家、ジャーナリスト、エッセイストについて、調べることができます。同時に多数の資料を検索することができ、フルテキストを表示することができるため、とても簡単にすばやく必要な資料を見つけることができます。

## ● アクセス

学内のパソコンからアクセスできます。学術情報センターの TOP ページからアクセスしてください。または直接 <http://infotrac.galegroup.com/itweb/gvrlasia11?id=jpnwu> へアクセスしてください。オンラインのため、図書館の開館・閉館に関係なく、24 時間アクセス可能です。

## ● 検索方法

詳しくは [http://www.maruzen.co.jp/home/irm/econtents/catalog/gale/LRC/manual/LRC\\_manual.pdf](http://www.maruzen.co.jp/home/irm/econtents/catalog/gale/LRC/manual/LRC_manual.pdf) を参照してください。

## ● 収録されているデータ

図書だけではなく、約 269 タイトルの学術雑誌(1980 年以降)からも関連記事が掲載されています。また関連する Web サイト 6,000 件以上へのリンクがされています。データのアップデートは随時行われます。

### 収録されている代表的な図書資料：

- Dictionary of Literary Biography
- Shakespearean Criticism
- Short Story Criticism

### 収録されている代表的な雑誌資料：

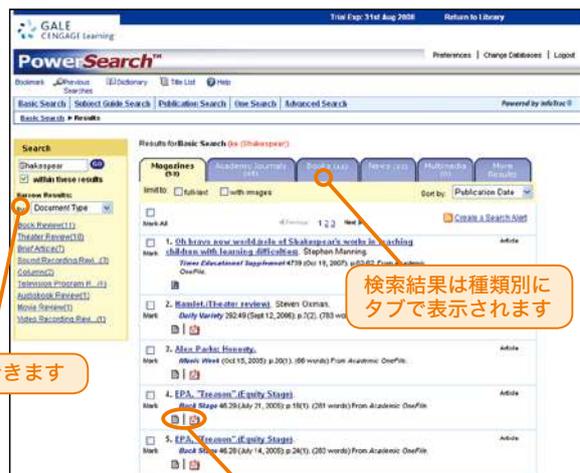
- Modern Language Quarterly
- Notes and Queries
- Twenties Century Literature

また、文学・言語関係の書誌データベース MLA International Bibliography も同時に検索することができます。

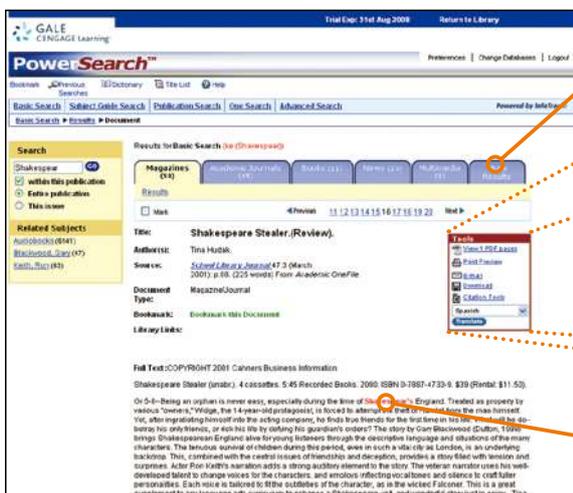
## ① アクセス後のページ



## ② 検索結果一覧



## ③ 記事表示



検索結果を移動することができます

本文をフルテキストまたは PDF ファイルで表示できます



検索語は赤くハイライトされます

## ◆ パスファインダー（テーマ別資料の探し方）を活用しよう ◆

あるテーマについて資料を探そうと思ったときに、どうやって調べたらいいのかわからなくて困ってしまうことはありませんか？ そんなときのために図書館では、パスファインダーを用意しています。

パスファインダーとは、調べ物をするときの「道しるべ」です。特定のテーマを調べるための手順とともに、参考資料やツールを紹介しています。図書だけでなく新聞記事や雑誌、インターネット上の情報源などを案内していますので、ぜひ活用してください。A4 サイズ 4 ページ分の折込リーフレットですので、気軽に読むことができます。内容は以下の順番になっていて、この順番で探していけば、もれなく資料を集めることができます。

1. キーワード
2. 下調べ
3. 図書を探す
4. 雑誌・雑誌記事を探す
5. 新聞・新聞記事を探す
6. 白書・統計・年鑑
7. Web サイト
8. 図書館にない資料の入手方法



### 1. キーワード

蔵書検索（OPAC）や各種データベースを検索する際に利用するキーワードの例です。これらのキーワードを手がかりにして資料を探すことができます。

### 2. 下調べ

言葉の意味やテーマの意味が不明確な場合は、1で紹介した「キーワード」を手がかりに百科事典、用語事典を引いてみましょう。まず、扱うテーマの概念や基本的な知識・用語を理解することが大切です。

パスファインダーでは図書館で所蔵している参考図書のうちの一部を紹介しています。

### 3. 図書を探す

図書を探す場合は、ブラウジングといって直接書架に行って探す方法と、蔵書検索で検索する2つの方法があります。パスファインダーでは、関連する分野の請求記号を紹介しています。図書館の本は請求記号順に並んでいますので、この記号を手がかりに書架に探しに行くことができます。

また、蔵書検索で検索した結果の一例として、図書館で所蔵している図書の一部も案内しています。

そのほか、本学以外の図書館の蔵書検索も紹介していますので、インターネットで検索して図書を探すことができます。

### 4. 雑誌・雑誌記事を探す

雑誌を探す場合は、蔵書検索で検索します。ここでは図書館で所蔵している関連雑誌を紹介しています。

また、雑誌記事を探すためのツールとして、図書館が契約している記事索引データベースの紹介をしています。図書館のホームページからリンクしていますので、簡単に雑誌記事を検索することができます。

参考として、各データベースでの検索結果を紹介しています。

### 5. 新聞・新聞記事を探す

最新の情報を調べるには新聞記事が有効です。図書館で所蔵している新聞（一般紙と関連する専門誌）を案内しています。

また、新聞記事を検索できるデータベースの案内とともに、実際の検索結果を紹介しています。

### 6. 白書・統計・年鑑

さらにテーマを深く掘り下げたり、統計データを調べるためには、専門事典・白書・年鑑などの情報が役立ちます。図書館で所蔵しているそれらの資料を紹介しています。また、Web で公開されている各府省の白書・年次報

告を見るためのサイトである「電子政府への窓口」の紹介もしています。

## 7. Web サイト

紙媒体になっていない情報など、インターネットでしか得られない情報は数多くあります。テーマに関連するサイトを図書館で厳選して紹介しています。

## 8. 図書館にない資料の入手方法

探している資料が本学図書館になかった場合の入手方法を案内しています。資料を所蔵している他大学図書館へ直接行ったり、論文のコピーや図書を郵送で取寄せることができます。また、入手までに少し時間がかかりますが、図書館に資料を購入するように依頼する方法もあります。

パスファインダーは、汐路本館では 2 F の第一閲覧室の入口正面、天白分館では情報コーナー付近に配布資料として置いてありますので、自由にお持ちください。また図書館ホームページ上にも掲載していますので、閲覧したり印刷することもできます。

The image shows a sequence of screenshots from the Nagoya Women's University library website. The first screenshot shows the library's homepage with a search bar and navigation menu. A green circle highlights the 'OPAC' (Online Public Access Catalog) link. A second screenshot shows the OPAC search results page, with a green circle around the 'パスファインダー(テーマ別資料の探し方)' link. A third screenshot shows the 'パスファインダー(テーマ別資料の探し方)' page, which lists various resources. A green circle highlights the 'ドメスティック・バイオレンス(DV)(2008/05/22作成)' link. A fourth screenshot shows the 'ドメスティック・バイオレンス(DV)' page, which provides detailed information and a list of resources. A fifth screenshot shows a list of resources, with a green circle around the 'ドメスティック・バイオレンス(DV)(2008/05/22作成)' link.

パスファインダーは、今後もいろいろなテーマで作成して追加していく予定です。

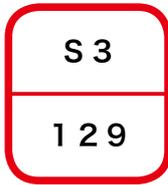
パスファインダーにないテーマを探したいときは、係員が相談にのりますので、気軽に図書館カウンターまで質問してください。

# お知らせ

## ■出版物費資料のラベル変更について

ベストセラーなどの読みものや、各種資格試験の問題集などは、古い内容では利用に適さないため、出版物費で購入をして適宜入替をしています。この出版物費の資料のラベルが変わりました。今までは丸いラベルでしたが四角い赤色の2段ラベルになりました。ラベルの上の段には、出版物費をあらわす「S」と、分類番号（本の内容を表す番号）が記されています。

分類がわかるようになりましたので、今までより本が探しやすくなりました。ぜひ利用してください。



## ■参考図書の貸出開始について

辞書や年鑑などの参考図書は「一夜貸し」だけでしたが、みなさんの要望に答えて、一部の参考図書を1週間貸出できるようにします。参考図書コーナーの本は従来どおり「一夜貸し」のみですが、同じ本があるものや、以前の版のもの、過去の年鑑などは貸出します。参考図書には館内ラベルが貼ってありますが、貸出のできるものには請求記号ラベルの下に「貸出可」というラベルが貼られています。ぜひ活用してください。



## ■試験期間の日祝開館について

みなさんの要望により、今年の7月の前期試験期間に初めて図書館とPC演習室の日曜・祝日の開館を行いました。当初の予想を上回る多くの利用がありました。1月の後期試験期間も日曜・祝日の開館をしますので、試験勉強やレポート作成に、ぜひ利用してください。

### 後期試験期間の日祝開館予定（図書館・PC演習室）

開館日	1月11日(日)、12日(月)、25日(日)
開館時間	9:00~17:00



## ■OPACからのフルテキスト電子ジャーナルへのリンク

EBSCOhostに収録されているフルテキストのデータベース Academic Search Elite（総合／全文）に掲載されている雑誌が、蔵書検索（OPAC）でも検索可能になりました。現在登録されているのは約2,000誌です。OPACで検索すると、検索結果一覧に“電子資料”と表示されます（図1）。検索結果詳細画面を開くと、URLが記載されています（図2）ので、URLをクリックすると電子ジャーナルの詳細画面が表示されます（図3）。学内であればアクセスできますので、ぜひ利用してください。



(図1)



(図2)



(図3)

名古屋女子大学 学術情報センターだより 第52号 発行日：平成20年10月1日

発行：名古屋女子大学学術情報センター  
〒467-8610 名古屋市長春区汐路町3-40

● 図 書 館 TEL (052) 852-9768  
● システムサービス TEL (052) 852-1120